



古人骨コーナーを見学する荒川哲男学長(右)・児玉隆夫全学同窓会会長(中央)・湯浅勲教育後援会代表幹事(左)

## 140周年記念展示室「大阪の歴史と共に」

### 140周年記念展示室開設にあたって

コロナ禍など激動の世情にもかかわらず、140周年記念展示室を開設できたことは、ピンチをチャンスに転換する本学の伝統と誇りの現れであり、(仮称)大学史資料館設立準備委員会の桐山委員長をはじめ関係各位の多大なご協力によるものと、感激しております。

登録有形文化財である1号館は、建物自体に歴史的価値があり、その中に市大の歴史をふんだんに盛り込み、博物館(ミュージアム)に育てていきたいと考えております。その第一歩として、140周年にあたる本年、〈歴史・伝統×感謝・誇り×革新・飛躍〉を掲げた記念事業の柱として展示室を設立いたしました。展示室の大きな見どころは、本学の研究者が発見した微生物の化石、日本の歴史を物語る古人骨、海外からも注目される貴重な古文書、この3つですが、室に入りきれない市大の宝がまだまだ多く、これらを若い世代に生かしていきたいと考えております。引き続きご支援をお願い申し上げます。

大阪市立大学 学長 荒川哲男

大阪市立大学では、2019年度から、将来の大学博物館を見据えて、(仮称)大学史資料館設立準備委員会を組織し、その活動の一環として140周年記念展を企画し、11月3日、1号館1階に展示室を開設しました。

展示室は「大阪の歴史と共に」をテーマに、大学史のトビラと研究成果のトビラ(理系・文系)で構成され、大学史のトビラは、140年におよぶ本学の歴史を多くの資料を元に展示しています。理系コーナーは、大阪の大地の歴史を明らかにした地質・古生物の研究、文系コーナーは、大阪の歴史を縄文時代から近代まで多くの資料(遺物・古文書)をもとに描いています。ひとつのテーマを異なる視点で見る総合大学ならではの展示もあります。

大学の歴史は、学生、教職員の日々の教育研究活動の積み重ねによって作られていきます。そうした営為の一端に触れて、本学を知っていただくだけでなく、懐かしい思いや新たな発見をしていただければ幸いです。

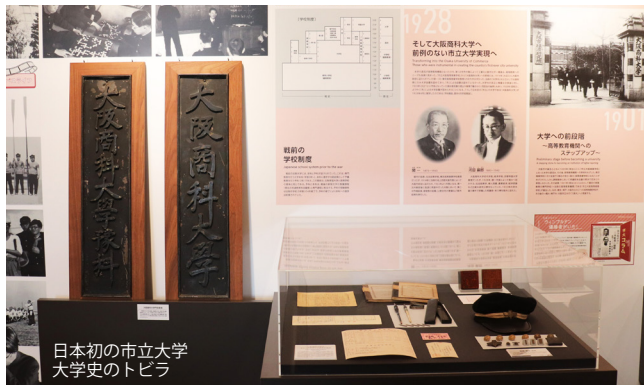
新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、見学は申し込み制(裏面)となりますが、多くの皆さんに見学いただきたいと思います。

(仮称)大学史資料館設立準備委員会 委員長 桐山孝信



140周年展と大学史資料館(大学博物館) 実現にむけて「寄附のお願い」→大阪市立大学夢基金  
お申込み時にTOP1「創立140周年記念事業」を選択してください  
【お問い合わせ】大学サポーター交流室(夢基金担当) TEL06-6605-3415  
<https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/fund/xbtf2s>

編集発行  
(仮称)大学史資料館設立準備委員会  
学術情報総合センター6階 大学史資料室内  
TEL: 06-6605-3261



日本初の市立大学  
大学史のトビラ



研究成果のトビラ (理系)



杉本村 山野家文書  
研究成果のトビラ (文系)



剥き出しの壁

◆**大学史** 大学史を4つの画期に分け、その沿革を解説してあります。第1は、大阪商業講習所に始まる初期の時代、第2は日本で初めて「市立」の大学となった旧制大阪商科大学の時代、第3は、戦後、大阪市立の4つの教育機関が一緒になった新制大阪市立大学の時代、第4は占領軍による学舎の接管と、解除後以降、大学紛争を経て大学が充実と発展をとげる時期です。しかし、その140年のあゆみを限られた面積ではとても紹介しきれません。この展示室を契機に、より充実した機能を備えた大学博物館へと発展させるべく、皆様のお力添えをお願いします。(大学史資料室 田中ひとみ)

◆**研究成果 (文系)** 市大所蔵の文系資料には膨大な江戸時代の文書および明治以降の文書があります。展示としてはその前に、まず住吉南部の素材を用いて大阪の歴史をたどります。山之内遺跡の弥生土器、依網池、古代の土器と瓦、中世の鋳物師の資料、また難波宮を発見した山根徳太郎を紹介しました。そして江戸時代以降のところで所蔵資料の一端を配列しています。中央のテーブル展示でも大阪平野の形成や出土人骨について文系視点から解説し、最後のテーブルで、江戸時代の大坂の町と農村である杉本村の文書群を対比的に取り扱いました。

(文学研究科 岸本直文)

◆**研究成果 (理系)** 放散虫化石による日本列島形成史の解明、地道な地質調査やボーリングデータによる大阪平野の地質、大阪平野の地盤沈下・地震災害の背景、災害に対する「防災・減災の取組み」を展示しています。放散虫化石模型、手書きの地質図、大阪平野の地下地質の映像や地下構造模型が見どころです。また、日本初のヘリウム液化機と日本で最初に0.001K<sup>ケルビン</sup>を記録したポメラニッシュ冷凍機も展示しています。さらに、ノーベル賞を受賞された南部陽一郎先生と山中伸弥先生の業績の紹介や本学での講演・卒業式でのメッセージビデオを上映しています。(理学研究科 江崎洋一)

◆**展示設計・建築** 展示室のテーマ「大阪の歴史と共に」を象徴するのが展示室全体を取り囲む年表であり、5億年前の放散虫から最新の大学の研究活動まで、大学と大阪の歴史に多様な資料が結びついている様に見える化しています。他の見所として、剥き出しになった壁と天井は展示室設計の構想を一緒に練った3名の大学院生のアイデアを実現したもので、登録有形文化財である1号館の建築に残された「歴史の痕跡」を展示しています。また、見学者と共に展示室を進化させる「未来へのトビラ」や年表と展示を一体化する「赤い床タイル」の仕掛けがあります。(生活科学研究科 小池志保子)



### 準備室だより

◆140周年記念展示室が2020年11月3日に開室し、セレモニーが行われました。一般公開は12月中旬を予定しています。申し込み方法は決まり次第、大阪市立大学ホームページでお知らせします。◆大学ホームページの創立140周年記念特設サイトに、【大学史資料館の設立をめざして】が公開されています。大学史資料館の準備状況と140周年展の報告や、[NEWS LETTER]などを順次掲載していきます。ぜひご覧ください。◆この[NEWS LETTER]は、大阪市立大学 学術情報総合センター ホームページの学術機関リポジトリでも公開しています。「大学史資料館」で検索してください。

### (仮称)「大学史資料館」設立 準備委員会からのお願い

現在、学内にある資料の所蔵調査を行なっています。学術資料そのもの、研究の過程で残された資料類、実験装置や器具類、実習に用いられた教材や作品などを、大学史にかかわる資料とともに探しています。候補となる資料がありましたらご一報ください。

→学術情報総合センター6階 大学史資料室内 TEL: 06-6605-3261